

O2-013

保育所における医療的ケア児への支援 ー保育者の困難感に関する質的分析ー

小沢 浩美¹、永田 智子²

¹慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科後期博士課程、

²慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科

【背景】

本邦では医療的ケア児と呼ばれる子どもの人数が増加傾向にある。2021年には「医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律」が施行された。医療的ケア児への保育に関し、子どもの医療的ケアを理由とした安全上の問題により保育所での受け入れが困難な状況が指摘されている。保育所の保育士は医療的ケア児の受け入れには肯定的ではあるものの、実際の関わりにおいては不安や困難感を抱いていることも報告された。しかし、その困難感がどのようなものであるのかは十分明らかにされていない。

【目的】

医療的ケアを必要とする重症心身障害児への保育に携わる保育者の困難感にはどのようなものがあるのかを明らかにすること。

【方法】

医療的ケアを必要とする重症心身障害児への保育に携わる保育者を対象にインタビューを実施した。インタビューによって収集したデータを、グラウンデッド・セオリー・アプローチのオープン・コーディングを用いて質的帰納的に分析した。

【結果】

保育者の困難感に関する4つの概念を把握した。保育者は、子どもの医療器具に対するとまどいが大きく、子どもへの触れ方や声のかけ方といった接し方が分からず《子どもに接することへのとまどい》を感じていた。また、子どもに用いられている医療器具の扱い方によっては子どもの命に危険を及ぼす可能性を感じ、医療器具の扱い方や保育者自身が扱って良い範囲が分からず《子どもの医療器具を扱う怖さ》を感じていた。さらに、保育者は子どもの安全を守ることと、子どもの発達をより支援していきたいと考えることの間で《保育活動に制限があるもどかしさ》を感じていた。保育者は、保育中の子どもへ医療的ケアを実施する看護師から、保育への理解や配慮を感じられるかどうか、子どものためになる連携がとれているかどうかによって《子どものためになる看護師との連携》に困難さを感じていた。

【考察】

保育者が子どもと関わることへのとまどいや怖さを感じている具体的な内容や程度を踏まえた上での医療的な知識や技術の提供と、子どもへの関わり方のサポートが必要である。また、保育者と看護師が互いの専門的視点を尊重し合い、子どもを支援するという目標を共有できる体制を作り、医療的ケアを必要とする子どもへの支援を検討していく必要がある。

キーワード: 医療的ケア児、グラウンデッド・セオリー・アプローチ、困難、重症心身障害児、保育

O2-014

幼児をもつ父親の育児関与の実態とその関連要因

清野 星二、廣瀬 幸美、松崎 敦子

三育学院大学

【背景】

近年の父親の育児研究では、主に父親の育児時間や育児頻度、母親の観点から父親の育児の評価が行われてきたが、父親による間接的な関与や幼児の社会性への影響なども包括される育児関与という視点からの研究は殆ど行われていない。

【目的】

幼児をもつ父親がどのような育児関与を行っているのかについてその実態を調査し、父親の育児関与に関連する要因を明らかにすることを目的とした。

【方法】

保育所と幼稚園に通う、3～6歳の子どもをもつ702名の父親を対象とし、有効回答243名（有効回答率34.6%）を分析対象とした。調査内容は父親の育児関与〔5下位尺度：支持、交流、家事、しつけ、世話〕、対象者の背景、職場環境、ソーシャルサポート、配偶者からの役割期待とし、無記名自記式質問紙調査および無記名のWeb調査を行った。

【結果】

父親の育児関与において実施が30%を超えていた下位尺度は、〔支持〕5／5項目、〔交流〕3／8項目、〔家事〕3／9項目、〔しつけ〕7／7項目、〔世話〕2／3項目であった。育児関与に対し有意差が認められた対象者の背景は、1週間の労働時間、配偶者の職業、最終学歴、年代、子どもの人数、未就学児の数の6項目であった。また、職場環境では、育児に対する上司の理解、育児に対する同僚の理解、育児支援制度の利用に対する職場の理解の3項目全てで有意差が示された。育児関与とソーシャルサポートとの関連では、〔交流〕と情緒的および情動的サポートに中等度の正の相関が認められた。育児関与と配偶者からの役割期待との関連では、弱い正の相関が認められた。重回帰分析を行った結果、育児関与に対して、配偶者の職業、育児に対する上司の理解が正の影響を与え、1週間の労働時間が負の影響を与えていた。

【考察】

父親の育児関与の実態としては、〔支持〕、〔しつけ〕が多く、子どもに対するマナーやルールを教えるという実態が明らかになった。育児関与とソーシャルサポートとの関連から、在宅時間が短い父親が子どもの様子を理解できるように、情緒的および情動的サポートを提供することの重要性が示唆された。重回帰分析の結果は先行研究と一致しており、各家庭の就労状況を考慮し、上司の理解を得ながら労働時間を調整する必要性が示唆された。